

< 設備のバージョンアップよりも >

韓国の気象庁による短期降水予報(明日は午後から雨でしょう等)の誤報率は、2004年12.5%、2005年13.2%、2006年13.8%と年々高まっている。そのため、韓国のある新聞は2007年3月初旬、気象庁を「狼少年」と揶揄したりもした。

誤報率が下がらない原因は、韓国気象庁職員の「天気予報担当部署に在籍する年数」の平均が2.7年と短く、天気予報担当部署に5年以上在籍した職員はたったの5人しかいないという現状にあると思う。韓国の気象庁にもスーパーコンピューターは導入されているが、その情報を正しく分析できる「天気予報のプロ」が育成されていないのである。携帯電話にせよ自動車にせよ、ニューバージョンが出れば誰だって欲しい。しかし、天気予報などの情報産業においては、設備のバージョンアップよりも人材育成のほうが最終的に重要なのではないだろうか。